

**[A年] 公現後第8主日(2025年3月2日)****【旧約聖書日課】 イザヤ書 30章8～17節**

- 8 今、行って、このことを彼らの前で  
板に書き、書に記せ。  
それを後の日のため、永遠の証しとせよ。
- 9 まことに、彼らは反逆の民であり  
偽りの子ら、主の教えを聞こうとしない子らだ。
- 10 彼らは先見者に向かって、「見るな」と言い  
預言者に向かって  
「真実を我々に預言するな。  
滑らかな言葉を語り、惑わすことを預言せよ。」
- 11 道から離れ、行くべき道をそれ  
我々の前でイスラエルの聖なる方について  
語ることをやめよ」と言う。
- 12 それゆえ  
イスラエルの聖なる方はこう言われる。  
「お前たちは、この言葉を拒み  
抑圧と不正に頼り、それを支えとしているゆえ
- 13 この罪は、お前たちにとって  
高い城壁に破れが生じ、崩れ落ちるようなものだ。  
崩壊は突然、そして瞬く間に臨む。
- 14 その崩壊の様は陶器師の壺が砕けるようだ。  
容赦なく粉碎され  
暖炉から火を取り  
水槽から水をすくう破片も残らないようだ。」
- 15 まことに、イスラエルの聖なる方  
わが主なる神は、こう言われた。  
「お前たちは、立ち帰って  
静かにしているならば救われる。  
安らかに信頼していることにこそ力がある」と。  
しかし、お前たちはそれを望まなかった。
- 16 お前たちは言った。  
「そうしてはいられない、馬に乗って逃げよう」と。  
それゆえ、お前たちは逃げなければならない。  
また「速い馬に乗ろう」と言ったゆえに  
あなたたちを追う者は速いであろう。
- 17 一人の威嚇によって、千人はもろともに逃れ  
五人の威嚇によって、お前たちは逃れる。  
残る者があっても、山頂の旗竿のように  
丘の上の旗のようになる。

**【使徒書日課】 使徒言行録 12章1～17節**

1そのころ、ヘロデ王は教会のある人々に迫害の手を  
伸ばし、2ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。3そして、  
それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、更にペトロをも捕  
らえようとした。それは、除酵祭の時期であった。4ヘ  
ロデはペトロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組  
に引き渡して監視させた。逾越祭の後で民衆の前に引き  
出すつもりであった。5こうして、ペトロは牢に入れら  
れていた。教会では彼のために熱心な祈りが神にささげ  
られていた。

6ヘロデがペトロを引き出そうとしていた日の前夜、  
ペトロは二本の鎖でつながれ、二人の兵士の間で眠って  
いた。番兵たちは戸口で牢を見張っていた。7すると、  
主の天使がそばに立ち、光が牢の中を照らした。天使は

ペトロのわき腹をつついて起こし、「急いで起き上がり  
なさい」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。  
8天使が、「帯を締め、履物を履きなさい」と言ったの  
で、ペトロはそのとおりにした。また天使は、「上着を  
着て、ついて来なさい」と言った。9それで、ペトロは  
外に出てついて行ったが、天使のしていることが現実の  
こととは思われなかった。幻を見ているのだと思った。  
10第一、第二の衛兵所を過ぎ、町に通じる鉄の門の所ま  
で来ると、門がひとりでに開いたので、そこを出て、あ  
る通りを進んで行くと、急に天使は離れ去った。11ペト  
ロは我に返って言った。「今、初めて本当のことが分か  
った。主が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダ  
ヤ民衆のあらゆるもくろみから、わたしを救い出してく  
ださったのだ。」12こう分かんるとペトロは、マルコと呼  
ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、  
大勢の人が集まって祈っていた。13門の戸をたたくと、  
ロデという女中が取り次ぎに出て来た。14ペトロの声だ  
と分かんると、喜びのあまり門を開けもしないで家に駆け  
込み、ペトロが門の前に立っていると告げた。15人々は、  
「あなたは気が変になっているのだ」と言ったが、ロデ  
は、本当だと言い張った。彼らは、「それはペトロを守  
る天使だろう」と言い出した。16しかし、ペトロは戸を  
たたき続けた。彼らが開けてみると、そこにペトロが  
いたので非常に驚いた。17ペトロは手で制して彼らを静か  
にさせ、主が牢から連れ出してくださった次第を説明し、  
「このことをヤコブと兄弟たちに伝えなさい」と言った。  
そして、そこを出てほかの所へ行った。

**【福音書日課】 マタイによる福音書 14章22～36節**

22それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、  
向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。  
23群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登り  
になった。夕方になっても、ただひとりそこにいられた。  
24ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れてお  
り、逆風のために波に悩まされていた。25夜が明けるこ  
ろ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれ  
た。26弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるの  
を見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声  
をあげた。27イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安  
心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」28すると、  
ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命  
令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」  
29イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟か  
ら降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。30しかし、  
強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、  
助けてください」と叫んだ。31イエスはすぐに手を伸ば  
して捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言  
われた。32そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まっ  
た。33舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の  
子です」と言ってイエスを拝んだ。

34こうして、一行は湖を渡り、ゲネサレトという土地  
に着いた。35土地の人々は、イエスだと知って、付近に  
くまなく触れ回った。それで、人々は病人を皆イエスの  
ところに連れて来て、36その服のすそにでも触れさせて  
ほしいと願った。触れた者は皆いやされた。

## 「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

## イザヤ書 30章8～17節

<sup>8</sup> 今、行って、このことを彼らの前で  
板に書き、巻物に記せ。  
後の日のために、永遠の証しとせよ。  
<sup>9</sup> 彼らは反逆の民、偽りの子ら  
主の教えを聞こうとしない子らなのだ。  
<sup>10</sup> 彼らは先見者たちには「見るな」と言い  
予見者たちには  
「我々に正しいことを予見するな。  
我々に甘言を語り、欺瞞を予見せよ。」  
<sup>11</sup> 道から離れ、進路から外れ  
イスラエルの聖なる方を  
我々の前から取り除け」と言う。  
<sup>12</sup> それゆえ、イスラエルの聖なる方はこう言われる。  
「あなたがたはこの言葉を拒み  
抑圧と不正を頼み、それを支えとしているがゆえに  
<sup>13</sup> その罪は、あなたがたにとって  
高い城壁で膨らみ  
崩れ落ちようとする破れ目のようだ。  
その崩壊は、突然、瞬間に来る。  
<sup>14</sup> その崩壊は、陶工の壺が壊れるようなものだ。  
容赦なく砕かれ  
その破片の中には  
炉から火を取り、水溜めから水を汲むための  
かけらさえ見いだせない。」

<sup>15</sup> 主なる神、イスラエルの聖なる方はこう言われる。  
「立ち帰って落ち着いていれば救われる。  
静かにして信頼していることにこそ  
あなたがたの力がある。」  
しかし、あなたがたはそれを望まなかった。  
<sup>16</sup> あなたがたは言った。  
「いや、馬に乗って逃げよう」と。  
それなら、逃げてみればよい。  
「速い馬に乗ろう。」  
それなら、追っ手はお速い。  
<sup>17</sup> 一人の威嚇によって千人が逃げ  
五人の威嚇によってあなたがたは逃げる。  
山の頂の旗竿のように  
丘の上の旗のように  
僅かな者しか残らない。

## 使徒言行録 12章1～17節

<sup>1</sup> その頃、ヘロデ王は教会のある人々に迫害の手を伸  
ばし、<sup>2</sup> ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。<sup>3</sup> そして、そ  
れがユダヤ人に喜ばれるのを見て、さらにペトロをも捕  
らえようとした。それは、除酵祭の時期であった。<sup>4</sup> ヘロ  
デはペトロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に  
引き渡して監視させた。過越祭の後で民衆の前に引き出  
すつもりであった。<sup>5</sup> こうして、ペトロは牢に入れられ  
ていた。教会では彼のために熱心な祈りが神に献げられ  
ていた。

<sup>6</sup> ヘロデがペトロを引き出そうとしていた日の前夜、  
ペトロは二本の鎖でつながれ、二人の兵士の間で眠って  
いた。番兵たちは戸口で牢を見張っていた。<sup>7</sup> すると、主

の天使がそばに立ち、光が牢の中を照らした。天使はペ  
トロのわき腹をつついて起こし、「急いで起き上がりな  
さい」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。  
<sup>8</sup> 天使が、「帯を締め、履物を履きなさい」と言ったの  
で、ペトロはそのとおりにした。また天使は、「上着を  
着て、付いて来なさい」と言った。<sup>9</sup> それで、ペトロは外  
に出て付いて行ったが、天使のしていることが現実のこ  
とだとは分からず、幻を見ているように思えた。<sup>10</sup> 第一、  
第二の衛兵所を過ぎ、町に通じる鉄の門の所まで来ると、  
門がひとりでに開いたので、外に出て、通りを進んで行  
くと、突然、天使は離れ去った。<sup>11</sup> その時、ペトロは我  
に返って言った。「今、初めて本当のことが分かった。  
主が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダヤ民衆  
のあらゆるもくろみから、私を救い出してくださったの  
だ。」

<sup>12</sup> そうと分かるとペトロは、マルコと呼ばれていたヨ  
ハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集  
まって祈っていた。<sup>13</sup> 彼が門の戸を叩くと、ロデと言う  
召使の女が取り次ぎに出て来た。<sup>14</sup> ペトロの声だと分か  
ると、喜びのあまり、門を開けもしないで家に駆け込み、  
ペトロが門の前に立っていると知らせた。<sup>15</sup> 人々は、「あ  
なたは気が変になっているのだ」と言ったが、ロデは、  
本当だと言い張った。彼らは、「それはペトロを守る天  
使だろう」と言った。<sup>16</sup> しかし、ペトロは戸を叩き続け  
た。彼らが開けてみると、ペトロがいたので驚いた。<sup>17</sup>  
ペトロは手で制して彼らを静かにさせ、主が牢から連れ  
出してくださった次第を説明し、「このことをヤコブと  
きょうだいたちに伝えなさい」と言った。そして、そこ  
を出てほかの所へ行った。

## マタイによる福音書 14章22～36節

<sup>22</sup> それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、  
向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。  
<sup>23</sup> 群衆を解散させてから、祈るために独り山に登られた。  
夕方になっても、ただ一人そこにおられた。<sup>24</sup> ところが、  
舟はすでに陸から何スタディオンか離れており、逆風の  
ために波に悩まされていた。<sup>25</sup> 夜が明ける頃、イエスは  
湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。<sup>26</sup> 弟子た  
ちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、「幽  
霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声を上げた。  
<sup>27</sup> イエスはすぐに彼らに声をかけ、「安心しなさい。私  
だ。恐れることはない」と言われた。<sup>28</sup> すると、ペトロ  
が答えた。「主よ、あなたでしたら、私に命令して、水  
の上を歩いて御もとに行かせてください。」<sup>29</sup> イエスが  
「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水  
の上を歩き、イエスの方へ進んだ。<sup>30</sup> しかし、風を見て  
怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と  
叫んだ。<sup>31</sup> イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信  
仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。<sup>32</sup> そして、  
二人が舟に乗り込むと、風は静まった。<sup>33</sup> 舟の中にいた  
人たちは、「まことに、あなたは神の子です」と言って  
イエスを拝んだ。

<sup>34</sup> こうして、一行は湖を渡り、ゲネサレトの地に着い  
た。<sup>35</sup> 土地の人々は、イエスだと知って、付近にくまなく  
触れ回った。それで、人々は病人を皆イエスのところに  
連れて来て、<sup>36</sup> せめて衣の裾にでも触れさせてほしい  
と願った。触れた者は皆、癒された。

**黙想のためのノート****次主日の教会暦と聖書日課**

・3月2日「公現後第8主日」の日課主題は「奇跡を行くキリスト」。

・旧約聖書日課は、「イザヤ書」から、イスラエルの背信を責める預言の箇所。使徒書日課は、「使徒言行録」から、使徒ヤコブの死とペトロの投獄を伝える箇所。福音書日課は、「マタイによる福音書」から、「湖の奇跡」の逸話を伝える箇所。

**旧約日課(イザヤ 30 章より)**

・「イザヤ書」は、ユダヤ正典(ヘブライ語聖書)「後の預言者」の第一に置かれた預言文書。前8世紀後半、南王国ユダの四代の王に仕えた宮廷預言者イザヤの預言句集と活動録の集成。ただし、40章以下は、後代(前6世紀)バビロン捕囚期以降のイザヤを模範とする祭司・預言者集団による加筆と考えられている。本書の詳細については、最近の過去の資料「聖書と祈りの会 250205」および「聖書と祈りの会 250212」も参照。また、日課箇所の関連では、後者の資料が同じ章の中間部(30:18~21)に基づいて解説している。

・前8世紀後半は、オリエント世界の国際関係が大きく変化した時代である。メソポタミアの覇権国アッシリアにティグラトピレセル王(在位=前744~727年頃)が即位すると、彼は、軍事行動を活発化させ仇敵バビロニアを滅ぼし「バビロン王」を継承、続くシャルマネセル王(在位=前727~722年頃)、サルゴン王(在位=前722~705年頃)、センナケリブ王(在位=前705~681年頃)の各時代にアッシリアは、支配勢力を拡大し、エジプトも属国化するほどの一大帝国を築いた。北王国イスラエルは、このアッシリアの軍事行動に周辺諸国と同盟を組んで抵抗を試みたが、結局、前722年にはサマリア王権が滅ぼされることとなった。他方で南王国ユダは、それまで実質的に従属していた北王国との関係を絶ち、いち早くアッシリアへの服属を示し、北王国滅亡後もエルサレム王権は存続することとなった。この南王国の判断に、「宮廷預言者イザヤ」が大いに関わったことが、本書7章の記事などから示唆される。ところが、存続した南王国エルサレム宮廷は、アッシリアで王位継承の混乱が続くのを脇目にエジプトとの同盟を企み、アッシリア王センナケリブによる攻囲戦を引き込むこととなった(前700年頃)。このような主戦論は、北王国滅亡と共にそれまでサマリア王権を支えていた北部諸部族・諸聖所権力が南王国王権に影響力を行使するようになったことが背景にあるのかもしれない。日課箇所は、反アッシリア同盟を呼びかけるエジプトに同調し、アッシリアからの離反を試みようとしていたエルサレム王権に対して、エジプトに頼ることをやめ、政治的駆け引きをせずに肅々とアッシリアの支配する世界に留まることを、神の良しとすることとして示した、政治判断を促す預言となっている。

**使徒書日課(使徒 12 章より)**

・「使徒言行録」は、「ルカによる福音書」の続編として著された「初代教会正史物語」を展開する歴史物語文書。1世紀末頃までに地中海・オリエント世界に広く展開されていた諸教会が、ひとつのルーツを持つイエス・キリストに従う弟子たちの普遍的な教会共同体であるという自己理解を確立していく過程で生み出された文書と考えられる。本書は、前半部では、ペトロを中心とした使徒たちがエルサレムを拠点とする教会共同体を確立し、これが世界各地に拡散していく様子を物語り、後半部では、世界宣教の担い手となったパウロらの労によって諸教会が分裂の危機を乗り越えてひとつの交わりを形成していく様子を物語っている。

・日課箇所は、使徒らが世界各地に出て行って活動を始めたころ、エルサレムの教会共同体の責任者としてとどまっていた使徒ヤコブがヘロデの差し金によって殺されたことを伝えるところから話を展開している。使徒ヤコブは、「ヨハネの兄弟」ともあるように、福音書ではペトロおよび兄弟ヨハネと並んで三人の主イエスの側近として描かれる者の一人である。ここでヤコブ殺害を指示したとされる「ヘロデ王」は、ヘロデ大王の孫にあたる「ヘロデ・アグリッパ」。彼は、41~44年頃、ローマの承認を得て「ユダヤ王」を称し、ユダヤ地方を支配した。この時期、使徒たちの教会は「ユダヤ教社会」の枠組みの中で活動していたが、エルサレムに現れた「新しい分派の会堂」とみなされていたと考えられる。そのような「分派」は、当時のユダヤ教社会の中で雨後の筍のごとく生まれては消えていたと考えられ、使徒たちの「新しい会堂」だけが脅威とみなされたわけではなかったと考えられるが、他方で、ユダヤ教内で権力におもねることで他の分派に対して優位に立とうとする宗派集団もあったと考えられる。「ファリサイ派」もそのような宗派集団であり、「ヘロデ・アグリッパ」は自らファリサイ派であると称したとされることから、ヤコブ殺害やペトロ捕縛も、彼らの指導者がヘロデ王に求めたことであつたかもしれない。

・日課箇所は、殺されたヤコブに続いてペトロも捕縛されたが、主の天使の導きにより牢から逃れることができたという奇跡伝承を伝えている。このような奇跡伝承は、使徒ヤコブの死との対比によって、ペトロが初代教会の展開において重要な役割を担う人物として神の加護の中にあることを強調するために、本書に収録されたものと考えられる。同時に、彼が牢から逃れた後に向かったのが「マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家」と詳細に示されているように、このヨハネ=マルコの特別な役割を示唆するためにも、この説話が用いられている。「ヨハネ=マルコ」は、使徒らの信任厚かったバルナバの従兄ともされる人物で(コロ4:10)、教会伝承ではペトロの宣教活動に従事し通訳の役割を果たしたとも伝えられている。

・17節「ヤコブと兄弟たち」は、使徒ヤコブではなく「主の兄弟ヤコブ」と教会メンバーたちのことだろう。

## 福音書日課(マタイ 14 章より)

・日課箇所は、「湖の奇跡」として知られる説話箇所、「マルコ福音書」や「ヨハネ福音書」と共に、「パンの出来事(五千人の給食)」に続く説話として伝えられている。この説話を、「マタイ」は、①航行に難儀する弟子たちのもとに湖上を歩行した主イエスが現れる(24～27 節)、②ペトロが湖上の主イエスのもとに歩いて行く(28～32 節前半)、という二場面で伝えているが、「マルコ」および「ヨハネ」は、①のみの一場面で伝えている。元来は、場面①のみの説話伝承であったものを、「マタイ」が場面②を加えた説話に改変したものと考えられる。「マタイ」はおそらく、「ペトロ」の特別な役割を強調する目的で、場面②を加えたのだろう。この場面②の説話伝承は、他の福音書では採用されなかった「ペトロ伝承」の一つと考えられるが、「マタイ」編者による創作である可能性も否定できない。通説では、「マルコ福音書」編者(教会伝承では、バルナバの従兄ヨハネ＝マルコ)は、ペトロと行動を共にすることで直接にペトロの生涯を知る機会も多く、またペトロ自身から経験を聞く機会も多くあった人物とみなされてきた。他方で、「マタイ福音書」編者は、すでに諸教会で伝承されていた「福音書」や諸伝承集を取捨選択して福音書を編纂したとされる。

・「マタイ」は、末尾の場面も、「マルコ」や「ヨハネ」とは異なる伝え方をしている。すなわち、「マルコ」は、主イエスが湖上から船に乗り込まれ嵐が静まったことで弟子たちが驚いたが、その意味を理解することはなかったと描き、「ヨハネ」は、弟子たちの反応を伝えず、ただ主イエスの乗船によって舟がすぐさま目的地に到着したと描く。それに対して「マタイ」は、舟の中にいた者たちが「本当に、あなたは神の子です」と告白して、「拝んだ(プロスキュネオー)すなわち跪いて拝したと描いている。「本当に、あなたは神の子です(アレーテオース・テウー・ヒュイオス・エイ)」は、十字架上の主イエスを見て発言した百人隊長の「本当に、この人は神の子だった(アレーテオース・テウー・ヒュイオス・エーン)」とほぼ同じ表現。また、ペトロの信仰告白も、「マタイ」は「あなたはメシア、生ける神の子です」と伝えている(「マルコ」は「あなたは、メシアです」、「ルカ」は「神からのメシアです」)。「マタイ」において、弟子たちは、主イエスを「神の子」と告白する者として描かれており、ペトロは「神の子」告白集団の筆頭に位置づけられている、と言うことができる。

・27 節「安心なさい」の原語「タアルセオー」の原義は「自信を持つ／勇気がある／憚らない」などで、堂々とした態度を意味する。「湖上歩行の奇跡」は、主イエスの神的能力を表す出来事として解され、実際、その様子を見た船上の者たちの反応もそのようなものであるが、「マタイ」は、ペトロが主イエスに倣って「湖上歩行」を試みたことを描くことによって、これを単なる神的能力誇示の奇跡としてではなく、主イエスに従う者のあるべき態度を示唆するために描いている。

## 来週の誕生日 (3月2日～8日)

## 主日礼拝の讃美歌から

- ・21-360「人の目には」は、19 世紀スコットランドの自由教会(非国教会)牧師 W.C.スミスが作詞した原歌詞が改変されながら讃美歌集に採用されてきたもの。曲は、ウェールズ民謡とされるが、詳細は不明。
- ・21-57「ガリラヤの風かおる丘で」(= III 5)は、横浜指路教会で受洗し銀座教会員として長く歩んだ別府信男が中高生キャンプのために作詞し「ともいうたおう」の歌詞公募に応募して採用された歌詞に、カトリック信徒の作曲家・蒔田尚昊が曲を付した。
- ・21-521「とらえたまえ、われらを」(= I 344)は、20 世紀米国長老派牧師 W.フォークスが作詞、同じく長老派牧師 C.ローファーが作曲。ローファーが1918 年のある会議の最中に書いた曲にあわせて、フォークスが青少年向き讃美歌として作詞。日本語版は1954 年『讃美歌』から。

## 21-360「人の目には」

## Immortal, invisible

1. Immortal, invisible, God only wise, / in light inaccessible hid from our eyes, / most blessed, most glorious, the Ancient of Days, / almighty, victorious, thy great name we praise.
2. Unresting, unshaking, and silent as light, / nor wanting, nor wasting, thou rulest in might; / thy justice like mountains high soaring above / thy clouds, which are fountains of goodness and love.
3. To all life thou givest, to both great and small; / in all life thou livest, the true life of all; / we blossom and flourish as leaves on the tree, / and wither and perish but naught changeth thee.
4. Great Father of glory, pure Father of light, / thine angels adore thee, all veiling their sight; / all praise we would render, O help us to see / 'tis only the splendor of light hideth thee.

## 21-521「とらえたまえ、われらを」

## Take Thou Our Minds, Dear Lord

1. Take Thou our minds, dear Lord, we humbly pray, / Give us the mind of Christ each passing day; / Teach us to know the truth that sets us free; / Grant us in all our thoughts to honor Thee.
2. Take Thou our hearts, O Christ, they are Thine own; / Come Thou within our souls and claim Thy throne; / Help us to shed abroad Thy deathless love; / Use us to make the earth like heaven above.
3. Take Thou our wills, Most High! Hold Thou full sway; / Have in our inmost souls Thy perfect way; / Guard Thou each sacred hour from selfish ease; / Guide Thou our ordered lives as Thou dost please.
4. Take Thou ourselves, O Lord, heart, mind, and will; / Through our surrendered souls Thy plans fulfill. / We yield ourselves to Thee—time, talents, all; / We hear, and henceforth heed, Thy sovereign call.